

食中毒統計データについて

夏に食中毒が増える要因として、一般的に気温の上昇に伴い、食中毒菌が繁殖しやすくなることが挙げられますが、それだけではありません。夏の暑さで食欲が低下し、体力が落ちることや、水分を多く摂取することで胃酸が薄まり、食中毒菌が胃を通過しやすくなることも要因として考えられます。こうした食中毒に関する情報は、厚生労働省のウェブサイトに「食中毒統計資料」として公開されており（※1）、過去のデータも含めて閲覧することができます。この統計資料を活用し、食中毒の発生傾向や原因食品、事故事例を調査し、社員教育に役立てることは、多くの企業で実践されていることでしょう。

ただし、これらのデータには一つ大きな注意点があります。それは、統計があくまで保健所に届け出があった食中毒のみを対象としており、患者や医師からの届け出が無い事例は含まれていない点です。筆者も、数年前の夏に知り合いの居酒屋でカツオのたたきを食べた翌日、ひどい下痢に見舞われ医者にかかった経験がありますが、その際、医者から前日に食べた物について質問されることはありませんでした。また、知り合いの店であったため、敢えて報告することはありませんでしたが、あれは間違いなく腸炎ビブリオによる食中毒だったと考えています。しかし、このようなケースは統計データには反映されていません。世間にはこのような事例が多く、一説によれば、1件の届け出の陰に数十件の未報告事例があるとも言われています。そのため、統計データの数字だけを鵜呑みにするのは注意が必要です。

さて、コロナ禍において、食品事業者や消費者の衛生意識が高まり、ノロウイルスによる食中毒の患者数はコロナ禍以前の1万人前後から激減しました。しかし、新型コロナウイルスの感染症分類が五類に移行した後、ノロウイルスによる食中毒は再び増加傾向にあり、今後も冬季を中心に食中毒対策の最重要課題であり続けるでしょう。では、細菌性の食中毒の傾向はどうでしょうか。令和5年（2023年）の統計によると、患者数が最も多かったのはカンピロバクター・ジェジュニ／コリによるもので2,089名、次いでウエルシュ菌が1,097名、サルモネラ属菌が655名、腸管出血性大腸菌（VT産生）が265名、ぶどう球菌が258名となっています。例年、カンピロバクター・ジェジュニ／コリとウエルシュ菌が上位を占めますが、令和2年のように大規模な食中毒事件が発生すると、その原因菌が上位に現れる傾向があります（※2）。しかし、このデータには見逃しがちな点があります。食中毒統計作成要領によれば、複数の病因物質が関与する食中毒は「その他」に分類されることになっています（※3）。令和5年には「その他」として5件が報告されており、そのいずれも細菌性食中毒が関わっています。例えば、9月に発生した黄色ブドウ球菌とセレウス菌が原因とされる食中毒では554名の患者が、12月に発生したノロウイルスとカンピロバクター・ジェジュニ／コリが原因とされる食中毒では22名の患者が発生しましたが、これらは病原物質が

「細菌」の欄ではなく「その他」の欄に計上されています。「その他」の件数は少なく、順位に与える影響は限定的ですが、大規模な食中毒が含まれる場合は患者数の順位に大きな影響を与えることがあります。仮に554名をぶどう球菌に加えた場合、患者数順位は第3位になりますし、セレウス菌に加えた場合は第4位となります。

複数の原因が関与する事例は、単一原因の事例と比べ、複合的なリスクの把握、防御策の複雑さ、症状の多様性とそれに対する対応の必要性などの学ぶべき事も多いため、今後、厚生労働省の食中毒統計データを参照する際には、「その他」に分類された事例の中身も確認することが意外と役に立つかもしれません。

※1 厚生労働省 食中毒統計資料

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html

※2 平成30年～令和5年の食中毒統計の集計（厚生労働省 食中毒統計資料（2）過去の食中毒発生状況 ④病因物質別発生状況 より抜粋）

平成30年～令和5年の食中毒統計の集計

病因物質	平成30年			令和元年			令和2年			令和3年			令和4年			令和5年					
	総数	事件	患者	死者	総数	事件	患者	死者	総数	事件	患者	死者	総数	事件	患者	死者	総数	事件	患者	死者	
総数	1,330	17,282	3	1,061	13,018	4	887	14,613	3	717	11,080	2	962	6,856	5	1,021	11,803	4			
細菌	467	6,633	-	385	4,739	-	273	9,632	-	230	5,638	1	258	3,545	1	311	4,501	2			
サルモネラ属菌	18	640	-	21	476	-	33	861	-	8	318	1	22	698	-	25	655	1			
ぶどう球菌	26	405	-	23	393	-	21	260	-	18	285	-	15	231	-	20	258	-			
ポツリヌス菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	1	1	-	-	-	-			
腸炎ピブリオ	22	222	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	2	9	-			
腸管出血性大腸菌(VT産生)	32	456	-	20	165	-	5	30	-	9	42	-	8	78	1	19	265	-			
その他の病原大腸菌	8	404	-	7	373	-	6	6,284	-	5	2,258	-	2	200	-	3	116	1			
ウエルシュ菌	32	2,319	-	22	1,166	-	23	1,288	-	30	1,916	-	22	1,467	-	28	1,097	-			
セレウス菌	8	86	-	6	229	-	1	4	-	5	51	-	3	48	-	2	11	-			
エルシニア・エンテロコリチカ	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
カンピロバクター・ジエジュニ/コリ	319	1,995	-	286	1,937	-	182	901	-	154	764	-	185	822	-	211	2,089	-			
ナグピブリオ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
コレラ菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
赤痢菌	1	99	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
チフス菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
パラチフスA菌	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
その他の細菌	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-			
ウイルス	265	8,876	-	218	7,031	1	101	3,701	-	72	4,733	-	63	2,175	-	164	5,530	1			
ノロウイルス	256	8,475	-	212	6,889	1	99	3,660	-	72	4,733	-	63	2,175	-	163	5,502	-			
その他のウイルス	9	401	-	6	142	-	2	41	-	-	-	-	-	-	-	1	28	1			
寄生虫	487	647	-	347	534	-	395	484	-	348	368	-	577	669	-	456	689	-			
クドア	14	155	-	17	188	-	9	88	-	4	14	-	11	91	-	22	246	-			
サルコシステイス	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
アニサキス	468	478	-	328	336	-	386	396	-	344	354	-	566	578	-	432	441	-			
その他の寄生虫	4	6	-	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-			
化学物質	23	361	-	9	229	-	16	234	-	9	98	-	2	148	-	8	93	-			
自然	61	133	3	81	172	3	84	192	3	45	88	1	50	172	4	57	129	1			
植物性自然毒	36	99	3	53	134	2	49	127	2	27	62	1	34	151	3	44	114	1			
動物性自然毒	25	34	-	28	38	1	35	65	1	18	26	-	16	21	1	13	15	-			
その他	3	15	-	4	37	-	3	19	-	1	5	-	3	45	-	5	592	-			
不明	24	617	-	17	276	-	15	351	-	12	150	-	9	102	-	20	269	-			

※3 食中毒統計作成要領 <https://www.mhlw.go.jp/content/000496391.pdf>